

JECK Jica Expert Conference Kanagawa

JICA帰国専門家連絡会かながわ

第2号

JICA横浜国際センター（YIC）内にJECK活動拠点オープン

JICA横浜国際センター（YIC）のご好意によりYIC 3階の国際協力連絡室内に当会の活動拠点となるデスクや会議机等を設置してパーティションで区切ったスペースを整えて頂きました。パソコン等の事務機器は予算に合わせてこれから整備する予定です。YIC館内ではレストランの入り口の前、図書館の上に位置し、またデスク横の窓から外を眺めれば赤レンガ倉庫と大栈橋を見下ろすことになり、座っているだけで心が豊かになる場所となっています。残念ながら役員だけでは毎日詰めるだけの時間的、人力的余裕がありません。先般メーリングリストでもご連絡したように会員各位のボランティア的ご協力をお願いしていますが、当面の間、少なくとも毎週火曜日には役員が在席することにしていきます。是非ともお立ち寄りください。



当会スペースには、会員名簿や会計報告をはじめとする

JECK関係書類、YICからの定期刊行物（JICA専門家情報誌FRONTIER他）や連絡情報、他道府県の専門家連絡会会報等が揃っています。当面は情報交換、交流や会議、作業等の場として使っていきたいと考えています。また、同室内には神奈川県青年海外協力隊OB会、神奈川県NGOネット、さらに財団法人横浜市国際交流協会のブースもあり、YICに宿泊している各国研修生の出入りもあってインターナショナルな雰囲気です。大いに活用するためにもみなさまと意見交換をしたいと考えています。

「あーすフェスタかながわ2003」に参加して

中之藪賢治代表幹事



「あーすフェスタかながわ2003」が5月10日と11日の2日間、横浜市栄区にある「あーすぶらざ」で開催されました。

この国際交流イベントは、多様な文化と価値観を持つ人びとが生きいきと暮らせる「多分化共生社会」の実現をめざし、神奈川県国際課が中心となって企画、運営するものです。今年で4回目を迎えたこのイベントは、外国籍住民やNGO団体、ボランティアの方々の参加協力により開催するものです。

当連絡会にとってはじめての試みでしたが、JICAブースの中に参画し、会報創刊号を配布すると共に当会の紹介をしました。興味を持って立ち寄られる方から開発途上国などに対する質問がありました。今まで経験してきたことを説明しながら交流を図ることが出来ました。

また、民族衣装の展示と試着コーナーも設けられ、当会からも男性のフィリピンの伝統的シャツ、サウディ・アラビアの王族が着る民族衣装を提供しました。女性の民族衣装が多い中我々の男性衣装には多くの参列者が興味を持たれ、試着して写真を撮って楽しんでいました。松沢神奈川県知事も、サウディ・アラビアの民族衣装を試着され周りから大喝采をあびていました。

内容としては、室内外に分かれてブースがあり、室外ではテントの中で諸外国の料理が作られ販売していました。特にメキシコ、レバノン、ケニア、フィリピン料理には多くの参加者が列をなして料理を購入していました。その他にもNGO団体が日本の料理も提供していました。

2日間とも良い天気恵まれ、多くの一般市民の参加者がありました。来年は、当連絡会としても1つのブースを確保してこのイベントに参加する気運が盛り上がりました。皆様からのすばらしいアイデアを募集します。

花火を見ながら交流会

8月1日JICA横浜国際センター（YIC）で交流会が開催されました。今回の交流会は、横浜市保土ヶ谷区にある老人ホームからのお年寄りを招待して、センターに宿泊している外国人研修生とJICA職員、専門家連絡会、協力隊員OB会の有志が集まり、一緒に食事をしながら交流を図りました。研修員の中でも特に中南米の日系人学生は、積極的にお年寄りに話しかけるなど心温まる交流があり、印象的でした。



お年寄りから研修生に対して、日本独特の折り紙で作った飾り用の花が送られました。いただいた研修生は大変喜んで、家宝にすると話していました。

夜、7時15分になると横浜港からドドンという音と共に花火大会が始まりました。1時間15分と長丁場の花火大会でしたが、お年寄りや研修生は3階のテラスで熱心に花火を見ながらさらに交流を深めました。

終了後、来年も楽しみにしていますと言って帰られる方もいました。当連絡会としても交流活動の一環としてYICと連携を図りながらこのような交流会の継続を図っていこうと思います。

